

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2013年7月)

発表日 2013年8月9日(金)

～4ヶ月連続の低下も高水準は維持。季節調整値では先行きは上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 高橋 大輝

T E L : 03-5221-4524

原数値		景気の現状判断(方向性)					景気の先行き判断(方向性)					景気の現状判断(水準)				
		合計	季節調整 値	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	季節調整 値	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	季節調整 値	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連
12年	1	44.1	47.3	42.8	42.6	55.5	47.1	47.8	46.6	47.2	50.7	39.5	42.8	37.9	38.4	52.3
	2	45.9	46.2	44.4	44.8	57.7	50.1	47.6	49.9	49.0	53.5	40.2	41.2	38.2	40.9	51.7
	3	51.8	47.7	51.1	51.0	58.1	49.7	47.0	49.3	48.8	54.3	46.7	42.9	45.4	46.3	55.7
	4	50.9	46.7	50.3	48.7	59.6	50.9	46.3	50.6	49.8	55.9	45.5	42.6	44.4	44.1	55.8
	5	47.2	45.1	46.4	45.9	55.2	48.1	44.4	47.7	47.7	51.6	42.6	41.2	41.3	41.5	53.0
	6	43.8	42.3	42.1	44.4	53.9	45.7	43.2	44.5	46.8	50.8	40.0	37.9	38.2	40.0	51.5
	7	44.2	42.0	42.8	44.8	52.1	44.9	44.0	43.9	45.8	49.4	40.5	38.6	38.6	41.3	50.9
	8	43.6	43.2	42.1	44.0	52.5	43.6	44.9	42.6	45.0	47.6	40.4	39.7	38.5	41.2	51.4
	9	41.2	42.9	40.2	40.0	50.8	43.5	45.7	44.1	41.3	44.9	37.3	38.8	35.4	36.9	50.7
	10	39.0	42.5	38.4	38.3	44.3	41.7	45.1	41.9	40.5	43.2	35.4	37.6	33.8	35.0	46.0
	11	40.0	44.0	39.2	40.6	44.5	41.9	46.7	42.0	41.9	41.2	36.3	39.3	35.5	35.2	44.7
	12	45.8	47.7	45.5	45.6	48.5	51.0	54.3	50.2	52.8	52.8	39.2	41.3	38.4	38.1	47.5
13年	1	49.5	52.4	48.3	50.2	55.3	56.5	56.7	55.4	58.6	58.9	41.5	44.5	40.0	41.2	52.1
	2	53.2	53.3	51.7	55.0	58.6	57.7	56.7	57.0	59.1	59.3	45.9	46.7	44.0	47.3	54.6
	3	57.3	52.9	56.9	56.1	63.1	57.5	54.6	57.0	57.3	60.9	51.4	47.4	50.4	50.7	60.1
	4	56.5	52.5	55.5	56.7	62.3	57.8	53.3	56.8	58.8	61.8	50.4	47.5	48.5	51.8	60.3
	5	55.7	53.7	54.4	57.1	61.7	56.2	52.8	55.0	57.6	61.0	50.3	48.9	48.5	51.4	59.3
	6	53.0	51.7	52.2	52.8	58.0	53.6	51.5	52.6	54.8	57.5	50.0	48.3	48.8	49.6	58.7
	7	52.3	50.6	50.6	54.5	58.1	53.6	53.0	52.0	56.1	58.6	48.5	46.9	46.3	50.6	57.7

(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

○現状判断D Iは4ヶ月連続低下も、先行き判断D Iは横ばいに

内閣府から発表された2013年7月の景気ウォッチャー調査(調査期間: 7月25日～月末)では、現状判断D Iが52.3(前月差▲0.7ポイント)と4ヶ月連続で低下した。ただ、横ばいを示す50は6ヶ月連続で上回っており、景況感は依然良好であるといえよう。先行き判断D Iは53.6となり、前月差0.0ポイントと横ばいだった。内閣府の基調判断は「景気は、緩やかに持ち直している」となっている。

また、7月調査から現状判断D I、先行き判断D I、現状水準判断D Iの3系列の季節調整値が参考系列として公表された。季節調整値の現状判断D Iは50.6(前月差▲1.2ポイント)、先行き判断D Iは53.0(同+1.5ポイント)となった。現状判断D Iでは低下幅が拡大しているものの、横ばいを示す50は上回っている。先行き判断D Iでは上昇となっていることから、季節調整値でも景況感は良好な水準を保っているといえよう。

○家計動向関連は4ヶ月連続の低下、企業動向関連は3ヶ月ぶりの上昇

家計動向関連の現状判断D Iは50.6(前月差▲1.6ポイント)となった。百貨店(同▲10.6ポイント)や家電量販店(同▲7.9ポイント)が大きく低下したのが目立つ。「6月については、ファッションのクリアランスの前倒しもあり好調に推移したが、7月に入って厳しい状況にある。」(近畿・百貨店)などのコメントがみられ、猛暑や豪雨など気候の変化が激しかったことや夏のセールの前倒しによる反動、参議院選挙による売上の不調などが影響したようだ。家電量販店は今回大きく低下しているものの、5月前月差+6.5ポイント、6月に同+8.1ポイントと大きく上昇しており均してみれば景況感は上昇を続けている。コメントをみても「猛暑でエアコンや冷蔵庫の販売量が増えており、特に節電志向の高まりで、高付加価値商品の動きが良い。」(近畿・家電量販店)など、前月同様省エネ商品が好調だったとするコメントがみられた。

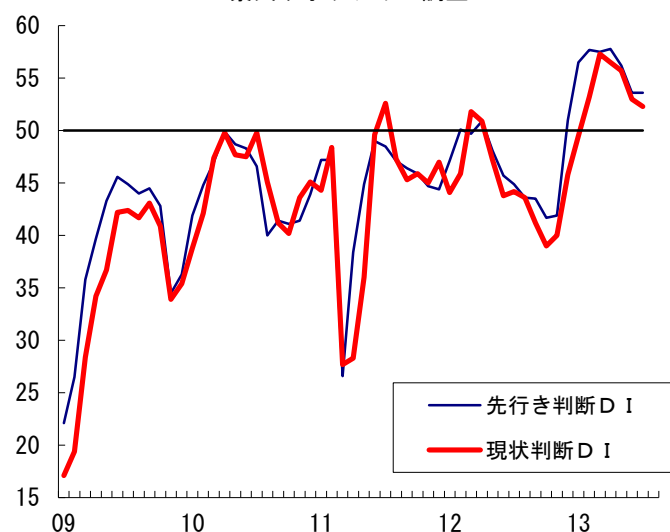
企業動向関連の現状判断D Iは54.5（前月差+1.7ポイント）と2ヶ月ぶりの上昇となった。また、製造業（同+2.3ポイント）、非製造業（同+1.3ポイント）揃っての上昇となった。「住宅、マンションが消費税増税前の駆け込みと思われる需要増加となっている。一般のビルや設備も工事が多くなっている。リフォームの増加で、内装工事を中心に増加傾向である。」（東海・住関連専門店）のように、消費税率引き上げ前の駆け込み需要による受注増のコメントがみられた。また、「円安の効果で、海外で組み立てる部品の輸出が増えている。」（東海・輸送用機械器具製造業）や「円安が定着しつつあり、国産100%の商品に人気に移りつつある。地場ワインメーカーにとっては順調に売行きが伸びている。」（北関東・食料品製造業）など、円安によって割高となった輸入品から国内品へシフトする動きもみられ始めたようだ。ただし、「輸入している商材単価が上がってきているが、現状は得意先に価格転嫁できていないため、利益が減っている。非常に苦しい状態である。」（近畿・その他非製造業）など、原材料価格の上昇や価格転嫁の難しさを指摘するコメントも依然として多い点には注意が必要だ。

○先行きは、アベノミクスへの期待が高まっているとみられる

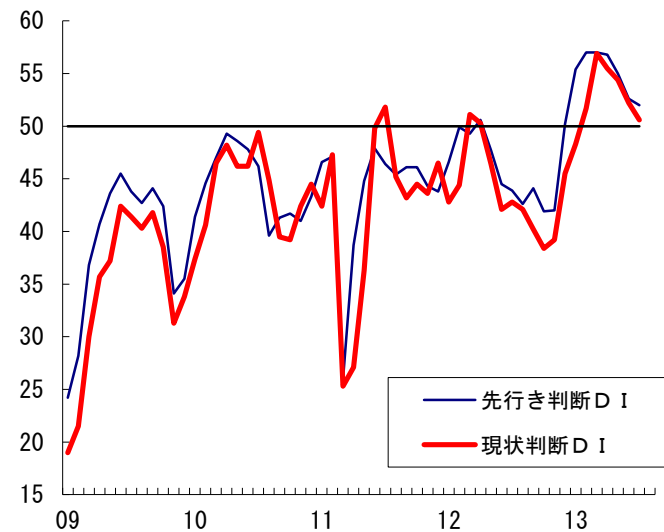
先行き判断D Iを項目別にみると、家計動向関連が前月差▲0.6ポイント、企業動向関連が同+1.3ポイント、雇用関連が同+1.1ポイントとなった。家計動向関連の低下幅は小幅であり、先行き判断D Iは季節調整値で上昇となっていることから良好な水準を保っているといえるだろう。コメントをみると、「参議院選挙の現政権圧勝により、国会のねじれが解消され、安定した政権運営が期待される。成長戦略により、物価上昇、景気浮揚につながる可能性がみえてきている。」（南関東・金融業）など、政権の安定によりアベノミクスへの期待が高まっているようだ。また、「参議院選挙の与党勝利による政策の加速への期待感と、消費税増税実施の判断が無理なく行われることから、増税前の駆け込み需要過熱が本格化していく。」（東海・百貨店）など、消費税率引き上げに関してのコメントも多くみられた。消費税率引き上げ前の駆け込み需要への期待と消費の冷え込みへの不安、どちらの意見も混在しているようだ。

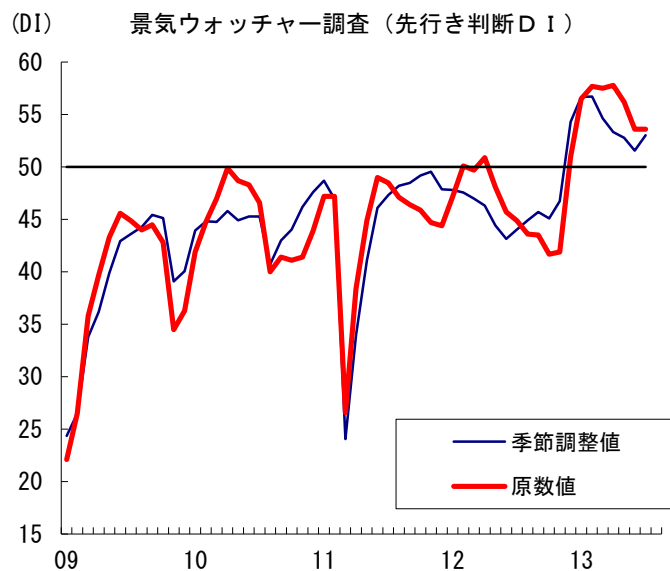
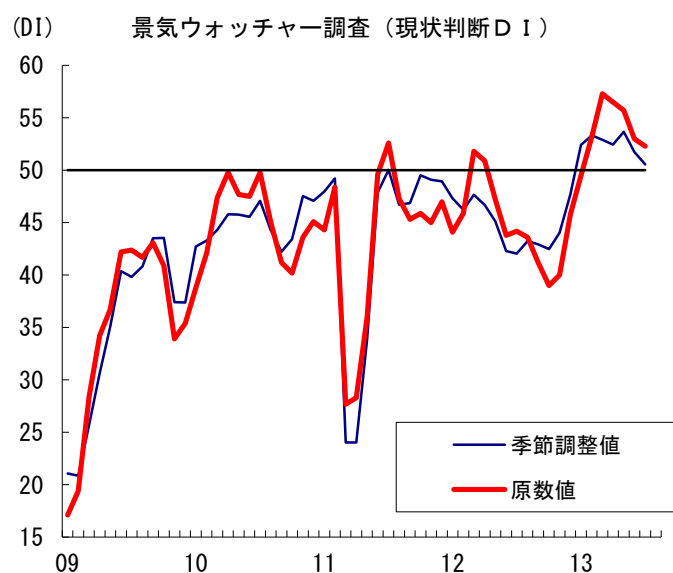
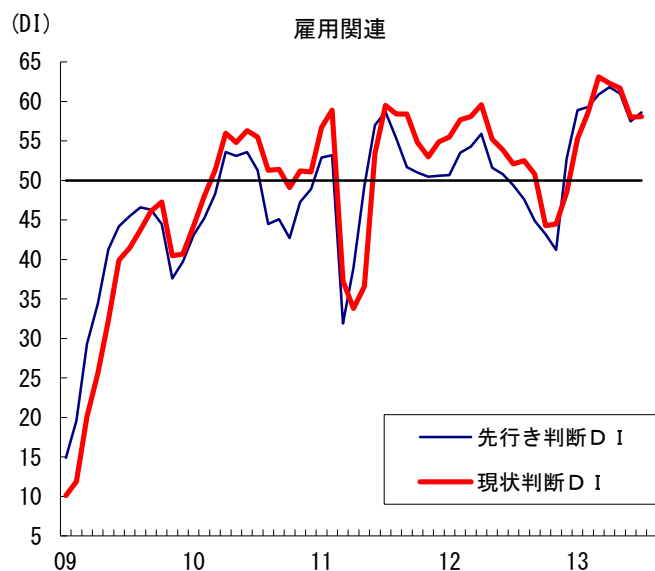
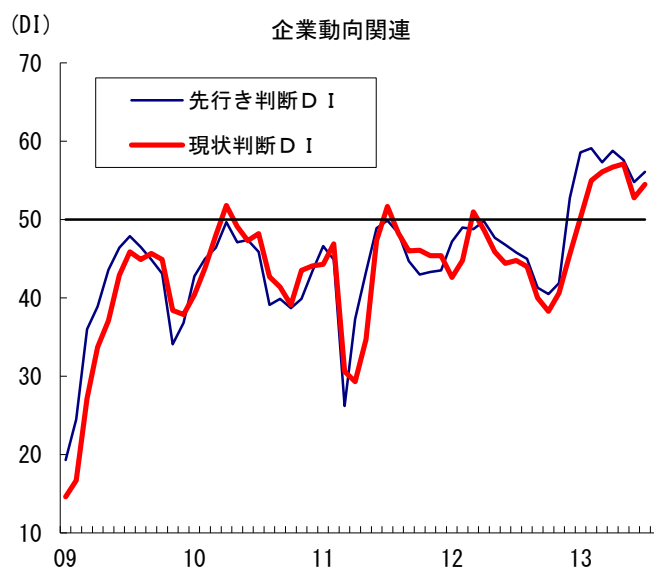
このように、今月の現状判断D Iは低下、先行き判断D Iは横ばいとなった。現状判断D Iの低下幅は小幅であることや今後の政権への期待が高いことを踏まえると、今後景況感は改善傾向で推移していくとみられる。

(DI) 景気ウォッチャー調査



(DI) 家計動向関連





※出所はすべて、内閣府「景気ウォッチャー調査」